

退任挨拶

前会長
野間口 有



皆様こんにちは。この2年間日本知的財産協会の会長を務めてきました野間口でございます。私はJIPAでは、副会長として2001年からの2年、そして2007年から会長としての2年ということで、いよいよ卒業させて頂きました。この間、皆様には本当にお世話になりました。厚く御礼申し上げます。

思い起こせば副会長を退任した後、当時の小泉首相の知財立国に向けた取組みが始まり、創造、保護、活用の知的創造サイクルを大きく早く回すという観点で知財改革が始まりました。私も政府の知財戦略本部の本部員として、産業界の皆様の声を反映できればと提言を行ってまいりました。結果としていろいろな施策が矢継ぎ早に実行され、大学知財権本部やTLOの設置、知財高裁の設立、任期付審査官の増員による特許審査迅速化、国際標準総合戦略の策定など、いろいろな成果が挙げられてきました。プロパテントというキーワードでの知財立国実現にお役に立てたのではないかと考えております。

世の中は、経済のグローバル化、ボーダーレス化、技術の複雑化、高度化、オープン化などというキーワードの下に時代は急速に変化し、知財をめぐる状況もイノベーション促進に向けて変化してきました。そして昨年秋からの未曾有の経済危機。会員企業の経営状況の悪化は如何ほどのことかと心配しておりましたが、このようなときにこそ、日本のものづくり技術に基づく知財をしっかり確保することが重要であると申してきました。

JIPAシンポジウムは例年東京で行われていましたが、昨年度の第8回目は創立70周年の節目を記念して京都での開催でした。このような経済危機のなかで、国立京都国際会館のあのホールが閑散とする状況もあり得るのではと懸念していましたが、蓋を開けてみると、階段席の最上階までいっぱいの盛況で、実に1,200名もの皆様が来場されたとのことでした。会員企業の経営者の皆様の知財に対する思い、そして知財をベースにこのような不況をチャンスに変えようとする強い思いを改めて実感しました。

今年度からの竹中新会長は、特許の苦い甘いも十分に心得ている方です。業界は違いますが、経営者として知財に対する強い信念は私以上のものを感じました。今後皆様と一丸となって日本の知財政策について、産業界として一層強い声を上げて頂けることを期待しております。

最後になりますが、JIPAでの活動は卒業させて頂きますが、日本経団連の知財委員長、知財戦略本部本部員などは継続して注力させて頂きます。今後とも微力ながら日本の知財制度や政策を、少しでも皆様方の使いやすいそして役立つものとするべく尽力する所存です。何卒皆様方のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。本当にありがとうございました。